



令和2年度 年次表彰式

11月27日(金)、全社協灘尾ホールにおいて、令和2年度年次表彰式が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、出席者を限定させていただき懇親会は全面中止としました。また、当日の会場は検温と消毒の徹底や2部構成での入場者入れ替え換気等、できる限りの対策を取らせていただきました。

制限のある中、文部科学省より萩生田大臣にご臨席いただき、大臣賞受賞者へ直接賞状の授与を行っていただくだけでなく、

年次表彰式においては初めて大臣他、ご来賓の皆様と受賞者一同での記念撮影を行い、ご来場いただいた皆様と喜びのひと時を分かち合う時間となりました。



発行所
〒107-0052
東京都港区赤坂7丁目5番38号
公益社団法人
日本PTA全国協議会
発行人 清水 敬介
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
<http://www.nippon-pta.or.jp/>

綱領

本会は、教育を本旨とし、特定の政党や宗教に偏ることなく、小学校及び中学校におけるPTA活動を通して、我が国における社会教育及び家庭教育の充実に努めるとともに、家庭、学校、地域の連携を深め、子どもたちの健全育成と福祉の増進を図り、もって社会の発展に寄与する。

式辞

公益社団法人日本PTA全国協議会
会長 清水 敬介

本日は、令和2年度日本PTA年次表彰式に、ご多忙の中、多くのご来賓の方々にご臨席賜り誠にありがとうございます。

令和2年度の年次表彰式ですが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年通りとはいかず、会場・開催内容を含めて大幅に縮小した形での開催となりました。密を避ける意味もあり2部制の入れ替え方式を今回取らせて頂きました。

そのような状況にもかかわらず、本日の会場にお越しを頂きました、優良PTA文部科学大臣表彰に選ばれた団体の皆様、そして第42回全国小・中学校PTA広報紙コンクールに入賞された文部科学大臣表彰を受けられる皆様、公益社団法人日本PTA全国協議会会長表彰を受けられる個人・団体の皆様、大変おめでとうございます。

主な内容

1・2面	○令和2年度年次表彰式
3面	○公益目的事業推進室会議活動報告
4面	○日本PTAブロック研究大会
5面	○協議会活動紹介
6面	○国内研修事業 ○教育関係23団体全国集会
7面	○諮問会議活動報告
8面	○第42回全国小・中学校PTA広報紙コンクール審査結果 ○令和2年度「楽しい子育てキャンペーン」

学びの環境も、全国のPTA活動も、従来とは違う形となり、感染を拡大させないための、いわゆる「三密」を避ける工夫のために多くの方が様々な苦慮されていることと推察します。

公益社団法人日本PTA全国協議会としても、令和2年度は例年とは違う形での活動を余儀なくされており、既に公益目的事業の中止や延期・今回の年次表彰式のような縮小も余儀なくされております。

コロナの終息が見えない中ではありますが、PTA活動のあり方を工夫し、リモート等も活用する事や色々と模索しながら活動を進めていこうとするPTAも多数あると思います。

我々公益社団法人日本PTA全国協議会としても、文部科学省様をはじめ、教育関係団体各位との連携をさらに深め、有益な情報を提供できるよう努めてまいります。

日本最大の社会教育関係団体として、全国の会員の皆様のため、そして大切な子どもたちの未来のために引き続き邁進いたします。

結びに、本日もご参集の皆様のご健勝と各団体のPTA活動の今後益々のご発展を祈念し、式辞といたします。

祝辞 第一部

文部科学大臣
萩生田 光一



本日に、令和2年度「日本PTA全国協議会」年次表彰式が盛大に開催されますことを、心より祝い申し上げます。

今回、表彰を受けられる皆様方は、学校・家庭・地域を結ぶPTA活動に取り組まれ、その振興に多大な貢献をされました。これまでの御功績に対し、深く敬意を表します。

また、「日本PTA全国協議会」の清水会長をはじめ

め、PTA活動の推進に御尽力を重ねてこられた関係の皆様方に、心より御礼申し上げます。

さらに、新型コロナウイルス感染症への対応として、大変な御努力と創意工夫のもと、様々な取り組みが進められていることに対し、重ねて感謝申し上げます。

我が国は今、「人生百年時代」や「超スマート社会」と言われる新しい時代を迎えています。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響は、人々の生活様式や社会の在り方を大きく転換する契機となりました。

このような中で、文部科学省では、私が大臣に就任以来取り組んでいる「1人1台」端末の導入など、「GIGAスクール構想」の実現と、その効果を最大化する少人数学級の実現が極めて重要であり、まさに車の両輪として進めているところであります。

また、安全な環境において子どもたちの学びをしっかりと保障し、個別最適な学びをさらに進めていくためにも、地域と学校の連携・

本紙は各校PTAに、「校長・教頭用」、「PTA会長・役員・広報委員用」、「事務局員用」を目安に配布しています。

2面へ続く

協働の推進などに全力で取り組んでまいります。

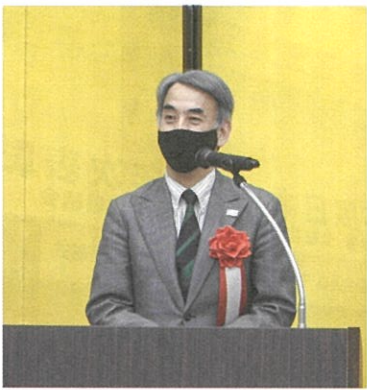
これらを実現するために、日頃からPTA活動に熱心に取り組んでいただいているPTAの皆様をはじめ、学校・家庭・地域の関係者が相互に連携・協力し、地域社会全体で子どもたちを見守り、育てることが必要です。今後とも御支援・御協力をお願いいたします。

結びに、表彰を受けられた皆様を始めとする、日本PTA全国協議会の皆様の一層の御活躍を期待いたしますとともに、協議会のますますの御発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。

祝辞 第二部

文部科学省総合教育政策局長

浅田 和伸



本日ここに、令和2年度「日本PTA全国協議会」年次表彰式が盛大に開催されますことを、心よりお祝い申し上げます。

今回、「日本PTA全国協議会会長表彰」を受けられる皆様方は、学校・家庭・

地域を結ぶPTA活動に取り組まれ、その振興に多大な貢献をされました。これまでの御功績に深く敬意を表します。

また、「日本PTA全国協議会」の清水会長をはじめ、PTA活動の推進に御尽力を重ねてこられた関係の皆様方に、衷心より御礼申し上げます。

今日、日本の社会を取り巻く環境は、少子高齢化やSociety 5.0の到来、グローバル化の一層の進展など、社会の激しい変革の中にあります。加えて、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、日本だけでなく世界中で、人々の生活様式が大きく変わる転換期になったのではないかと思っております。

こうした様々な、予測し難い変化に対応して、それを乗り越え、新しい価値を創造していく・見出ししていくためには、例えばあふれる情報の中で、不確かな情報に流されるのではなく、主体的に考えて、何が正しい情報なのかという判断したり、他者と対話し協働しながら、道を切り開いていくことができる、そういう力がこれからの子どもたちにはますます必要になってくると思います。

学校は、子供たちの豊かな学びと成長の場であると同時に、地域コミュニティ

の核でもあります。

文部科学省では、学校と地域が連携・協働する体制を全ての小・中学校区で一層強化できるよう、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部等の取組を推進しているところであります。

こうした取り組みを含め、学校・家庭・地域の連携を強化し、地域全体で子供たちを見守り、育む環境をつくっていくためには、日頃からPTA活動に熱心に取り組んでいただいている皆様方をはじめ、関係者の方々がお互いに子供たちの為に心を合わせ、手をつなぐ、一緒にやっていくということが不可欠だろうと思っております。

皆様はその核になられる存在であると存じます。どうか今後とも御支援・御協力・また御活躍をお願いいたします。

結びに、栄えある表彰を受けられた皆様、日本PTA全国協議会並びに関係者の皆様方の今後ますますの御活躍と御健勝を祈念し、また御期待申し上げます。お祝いの言葉といたします。

本日は誠にありがとうございます。

謝辞 第一部

受賞者代表 大谷 有二郎

ただ今、ご紹介にあずか

りました、大阪市立野田中学校でPTA会長をさせていただいております、大谷有二郎と申します。本日はこのような大きな賞を頂き、広報紙の作成で、支えていただいた皆様に感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。

野田中学校の広報紙は、保護者に喜んで頂く目的とともに、学校の記録、また生徒の皆さんの思い出の一冊となるように構成して年2回発行しております。また野田中学校を日頃より支えてくださっています地域の皆様、PTAの先輩方、歴代の校長先生・教頭先生にも配布をし、毎回非常に喜んでいただいております。

この広報紙を通して、学校の様子をお伝えさせていただくことにより、地域の皆様が生徒・親を育ててくださっています。

野田中学校は3年から1年生の縦の繋がりがありません。行事では、先輩が率先して準備や運営、片付けなどで行動する姿を後輩たちに見せて、学校を良くしていくこととしてきています。

そのように先輩が行動で伝えていく伝統が作られました。今年度の体育大会は、開催はするものの、どのように開催するか本当に学校も悩んでおられました。横のつながり、良き伝統に

なりつつあるものを大切にしたい」と判断され、無観客での開催となりました。PTAとしても生徒たちの繋がり、仲間との思い出を一番と考えました。ただ、保護者の思いにも心を寄せた時、何とか体育大会の様子を、保護者の皆様にもお伝えして、我が子の成長を感じていただければと思います。

役員と広報委員会合わせて7名で3500枚以上の写真を撮り、オンラインでの体育大会写真展を開催しました。ご家族で写真展をご覧になっていただいていたことができました。

このように、広報紙を楽しむ作り続けていけるように、また、多くの方の喜びや希望となるように、これから、みんなで力を合わせていきたいと思っております。全ては生徒の成長と、生徒に関わる大人の成長のために。

最後になりましたが、本日ご参加の皆様のご健康・



萩生田文部科学大臣より代表者へ直接授与

ご多幸を祈念して、お礼のご挨拶とさせていただきます。本日は大変にありがとうございました。

謝辞 第二部

受賞者代表 大田 紀子

本日は、私も被表彰者のためにかくも盛大な会をお開きいただき、ありがとうございます。

また、清水会長、来賓の文部科学省浅田局長におかれましては、あたたかいお祝いの言葉を頂戴し誠にありがとうございました。

昨今の新型コロナウイルス又感染症拡大の、この状況におきまして、私たちは「集う」という事そのもの、大きな障害を得る生活になってしまいました。

しかし、このような状況においてこそ、改めてPTAという「集う」活動にお

いて、大きな考えるきっかけを得られた、またそのうにもとらえられると思えます。

私たちは本日この会場において、いつもの表彰式より少ない人数ではございますが、多くの仲間がいることを目にしました。

教育とは芽が出るかどうか分からない小さな種をまき続ける事だと思えます。私たちは子どもたちのために、小さな種をまき続ける活動を、この多くの仲間と共に、これからもしっかりと丁寧におこなっていきたいと、そんなふうに感じたいと思えました。

結びに、ここにいらっしゃる多くの皆様方の変わらぬご健康を祈り、また皆で集まれるその日を夢見て、本日の御礼の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

第42回全国小・中学校PTA 広報紙コンクール 優秀広報紙作品集



令和2年度開催のコンクールの優秀作品を集めました。広報紙作りのポイント解説も掲載。お申込みは日本PTAホームページからどうぞ。

公益目的事業推進室会議活動報告

今年度は公益法人として行う目的事業において、64の協議会代表者が直接かかわり推進する「公益目的事業推進室」を設置しました。

協議会代表者自らが事業を推進することにより、日本PTAの活動のへ理解がより深まり、協議会内での活動・運営の醸成にもつながると考えています。

全国大会推進室

室長 青羽 章仁

私たちが全国大会推進室は、日本PTAの事業の要である全国大会を、開催地の協議会と連携しながら企画・立案し、実施までの道筋をしっかりと築き上げていくべく活動しています。また、大会の意義や開催までのプロセスが次年度以降もしっかりと引き継げるように室全体で取り組んでいます。

立に最大限考慮し、地域あるいは全国的に抱える子ども達を取り巻く問題を解決する「鍵」を見出す機会となる大会を指し、そして参加した皆さんがPTAの必要性を問い見つめ直しさらなる意識の高揚へ繋がる場となるように企画を進めていきます。

コロナ禍で年次表彰式の開催も危ぶまれましたが、参加人数を絞り、万全の感染予防対策を行った上で実施することができました。休校や行事の相次ぐ中止などでPTA活動も滞る中、PTA広報紙が例年通り発行できないことを考慮し、次年度募集に関して表彰推進室で見直し案などを話し合い、応募条件の2部以上発行を1部でも可能とすることを決定しました。広報紙・三行詩とも審査結果のお知らせが通常より遅くなりしましたが、作品選定等も表彰推進室で行っています。

PTA指導者講習会テキスト（仮題）については、大学教授や教育関係関係の皆様方に多大なご協力を賜りながら、今年5月末の出版を目指しております。どの組織においても、「活動を伝えなければ（伝わらなければ）、やってもいいも同然」と言われませんが、まさに日本PTA全国協議会も同様でありますので、それぞれの媒体のメリットをいかしながら、なるべくリアルタイムに関係者の皆様方へ情報をお届けしたいと考えております。

所、参加人数、研修プログラムに至るまですべての内容を見直し実施することになりました。しかし、1月7日に発出された「新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言」を受け、中止の決断をいたしました。やむなく中止を決定しましたが、コロナ禍にあって、この環境を受け入れ、今後どのように進めていくのか、この視点に立って事業計画を立てることにも大きな意味があったと思っています。

PTAは基本的に単年度で組織が変わっていく固定化しないというのは組織の硬直化も防ぎますし、組織の活性化にもなる利点があります。一方で事業のマンネリ化や事業目的の追求ではなく、事業実施が目的化してしまっています。今年度の事業中止を受け、改めて目的に則した事業計画を立てる機会にもなりました。公益事業目的にある「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成すること」とは何か。まずはこのことをメンバー内で共有し、これから未来へ向けて「今できること」や「今からやるべきこと」を目的の追求の必要性と備中です。

日本PTA

新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、私たちが取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。同様に子どもたちも環境変化に対応しながら成長を続けています。そうした中で、私たちの推進室では子ども達のためにも「学びの歩みを止めない」という強い気持ちと共有してコロナによりイベント等の中止が多々ある中でも、全国大会を開催できるように取り組んでいます。「感染拡大防止」と「学びの歩みを止めない」、こうした事の両

調査研究推進室

室長 吉村 昌之

今年度、調査研究推進室メンバーはアドバイザー2名を含め14名で、9月より毎月1回のリモート会議で活動をしております。活動内容は、今年度の「子どもとメディアに関する意識調査」、来年度の「教育に関する保護者の意識調査」についての精査です。実施事項としては、今年度の調査の「あとがき」の作成、来年度の調査の「設問の見直し」と「特設設問」の作成です。特に今年度の意識調査では、コロナ禍で

の休校中の「自宅での学習」に対するメディアの影響、保護者自身や子どもが感じた生活面の影響や戸惑い、不安などの設問を加え、自由記述においても多くのご意見をいただきました。また、来年度以降の意識調査の在り方、報告書の活用方法などを議論し、要望事項として意見をまとめていきたいと思っております。

この意識調査が、多くの会員の皆様の家庭教育の一助になることをメンバー一同、願っております。

広報推進室

室長 大島 修

広報推進室では、本年度は主に①日本PTA新聞の年2回発行②ホームページの更新③PTA指導者講習会テキスト（仮題）の出版を予定しております。

私たちが国内研修・国際交流推進室の目的は「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成するため、子どもを対象とする諸外国との国際交流や研修を実施する。」とあります。

これまで中華人民共和国での国外研修や沖縄県渡嘉敷村での研修事業を行ってきましたが、今年度の室の担いは、コロナの影響を踏まえた上で事業内容を変更し研修事業を実施することにいたしました。そこで感染対策はもちろんです、実施場

所、参加人数、研修プログラムの内容を見直し実施することになりました。しかし、1月7日に発出された「新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言」を受け、中止の決断をいたしました。やむなく中止を決定しましたが、コロナ禍にあって、この環境を受け入れ、今後どのように進めていくのか、この視点に立って事業計画を立てることにも大きな意味があったと思っています。

PTAは基本的に単年度で組織が変わっていく固定化しないというのは組織の硬直化も防ぎますし、組織の活性化にもなる利点があります。一方で事業のマンネリ化や事業目的の追求ではなく、事業実施が目的化してしまっています。今年度の事業中止を受け、改めて目的に則した事業計画を立てる機会にもなりました。公益事業目的にある「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成すること」とは何か。まずはこのことをメンバー内で共有し、これから未来へ向けて「今できること」や「今からやるべきこと」を目的の追求の必要性と備中です。

表彰推進室

室長 山田 洋子

表彰推進室では、PTA広報紙コンクール、「楽しい子育て全国キャンペーン」三行詩募集、PTA活動にて顕著な功績をあげた団体及び個人を顕彰する表彰式の3つの事業を推進する活動を行っています。令和2年度、コ

ロナ禍で年次表彰式の開催も危ぶまれましたが、参加人数を絞り、万全の感染予防対策を行った上で実施することができました。休校や行事の相次ぐ中止などでPTA活動も滞る中、PTA広報紙が例年通り発行できないことを考慮し、次年度募集に関して表彰推進室で見直し案などを話し合い、応募条件の2部以上発行を1部でも可能とすることを決定しました。広報紙・三行詩とも審査結果のお知らせが通常より遅くなりしましたが、作品選定等も表彰推進室で行っています。

私たちが国内研修・国際交流推進室の目的は「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成するため、子どもを対象とする諸外国との国際交流や研修を実施する。」とあります。

これまで中華人民共和国での国外研修や沖縄県渡嘉敷村での研修事業を行ってきましたが、今年度の室の担いは、コロナの影響を踏まえた上で事業内容を変更し研修事業を実施することにいたしました。そこで感染対策はもちろんです、実施場

所、参加人数、研修プログラムの内容を見直し実施することになりました。しかし、1月7日に発出された「新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言」を受け、中止の決断をいたしました。やむなく中止を決定しましたが、コロナ禍にあって、この環境を受け入れ、今後どのように進めていくのか、この視点に立って事業計画を立てることにも大きな意味があったと思っています。

PTAは基本的に単年度で組織が変わっていく固定化しないというのは組織の硬直化も防ぎますし、組織の活性化にもなる利点があります。一方で事業のマンネリ化や事業目的の追求ではなく、事業実施が目的化してしまっています。今年度の事業中止を受け、改めて目的に則した事業計画を立てる機会にもなりました。公益事業目的にある「国際社会で活躍できる次代を担う人材を育成すること」とは何か。まずはこのことをメンバー内で共有し、これから未来へ向けて「今できること」や「今からやるべきこと」を目的の追求の必要性と備中です。

教育支援助成事業推進室

室長 土田 修

当推進室は当協議会が行うべき教育支援助成事業のあるべき姿について検討を行っています。

これまで当協議会は、東日本大震災で被害に遭われた子どもたちへの教育支援助成事業を行ってきました。今後も、様々な災害をゼロにすることは難しく、いかにして被害を減らすか、いかに早く回復できるかが求められる中、災害で被害に遭われた子どもたちへの教育支援助成事業は重要な事業の一つであります。

昨今、全国各地で様々な災害が起きています。「コロナ禍も災害である」、そういった言葉を耳にします。現在のコロナ禍も災害の一つであり、心のケアも含め、それぞれの災害の被害に応じた教育支援が必要とされています。

このような状況を鑑み、地震や水害のみならず様々な災害に対応し得る、当協議会の全国組織としてのスケールメリットを生かした、新たな教育支援助成事業の開始に向け準備中です。

日本PTAブロック研究大会

公益目的事業の一環としてブロックPTA協議会ごとに開催される研究大会を後援していますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりほとんどの大会が中止を余儀なくされました。

しかし、開催予定の時期や地域でのコロナ対策の状況等により近畿ブロック、関東ブロックでの研究大会はオンラインを活用した「ハイブリッ

D型」を採用し開催にこぎつけていただきました。

これは正に公益目的にもある新しい時代の要請に応えるPTAのあり方を探求する第一歩であり、今後活動していく上での大きなヒントとなります。全国的にこうした事例を共有し皆様の活動に寄与して参ります。

関東ブロック

第52回日本PTA 関東ブロック研究大会とちぎ大会

令和2年11月14日、第52回日本PTA関東ブロック研究大会とちぎ大会が、無事行われました。通常であれば2000人以上の会員の皆様が集まり、2日間にわたり、講演や研究発表が行われる予定でした。しかし新型コロナウイルスの影響により、通常開催は困難な状況となりました。

大会自体を中止にするかの判断が迫る中、学校行事や様々な大会が次々に中止になり、子どもたちの残念そうな顔を見ているうちに、「安易な中止はしたくない、このような状況だからこそ私達PTAに出来ることがあるのではないか？」と考えるようになり、安全を確保しつつ、会員の皆様の研修の機会を確保することが出来ないかと考え、記念式典については、十分に感染対策を行った上で、必要最少人数で行い、研修については全て事前に撮影し、ネットで会員に向けて3か月間動画で配信をする形でいこうという結論になりました。

文部科学省の新学習指導要領には「これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、自ら行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい」と改定に対する思いが書かれています。コロナの影響で予測困難な状況ではありませんが、とちぎ大会に向けて、自ら課題を見付け、自ら行動をするというところを、子どもたちに見せることが出来たのではないかと考えています。

動画配信を行ったことにより、研究大会を初めて知った人、または初めて参加した人も多く、結果として、延べ2万人をはるかに超える会員の皆様にご参加(ご視聴)いただけただけは、とても大きな成果だと感じています。動画撮影を進めていくうちに、やればやるほど熱が入り、少々ボリュームが大きくなり過ぎたため、1日では到底視聴できないほど多くのコンテンツとなってしまっただことは反省点の一つではありますが、多くの会員の皆様から「時間の空いている時に視聴できるのが良い」、または「対談形式が多く、講演会が身近に感じられた」など、この新しい取り組みに対し、好意的な意見を頂きました。今後、新型コロナウイルスの状況もまだまだどうなるかわかりませんが、研究大会もこのような形がベストなのもわかりません。しかしPTAとしては、どのような状況でも学びは止めてはいけないということだけは、はっきりと分かっています。これから、私たちは試行錯誤しながら、そして会員同士、情報の共有や助け合いをしながら、活動を続けていきたいと思えます。

多くの皆様のご協力で特別な大会を成功することが出来ました。ありがとうございました。

△が大きくなり過ぎたため、1日では到底視聴できないほど多くのコンテンツとなってしまっただことは反省点の一つではありますが、多くの会員の皆様から「時間の空いている時に視聴できるのが良い」、または「対談形式が多く、講演会が身近に感じられた」など、この新しい取り組みに対し、好意的な意見を頂きました。今後、新型コロナウイルスの状況もまだまだどうなるかわかりませんが、研究大会もこのような形がベストなのもわかりません。しかしPTAとしては、どのような状況でも学びは止めてはいけないということだけは、はっきりと分かっています。これから、私たちは試行錯誤しながら、そして会員同士、情報の共有や助け合いをしながら、活動を続けていきたいと思えます。



近畿ブロック

第46回日本PTA 近畿ブロック研究大会京都府大会

新しい研修様式が、今後止や延期、開催方法等について知恵を絞る機会となりました。また、そんな協議の積み重ね

「新しい研修様式が、今後止や延期、開催方法等について知恵を絞る機会となりました。また、そんな協議の積み重ね

さらに、チャットの多彩な質問も瞬時に取り入れた質疑応答は、会員同士の一体感を実感させられるものでした。

「近畿は一つ!」、今大会で確認した合言葉をタスキに刻み、次回につなげます。



九州ブロック

第65回日本PTA 九州ブロック研究大会くまもと大会

第65回日本PTA九州ブロック研究大会くまもと大会は、令和2年10月に九州各地より6000名の会員の皆様にご参加をいただき開催する予定でありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により開催を中止いたしました。

2年以上の準備を重ねた大会を楽しみにしていた私達にとっ

ては、苦渋の決断でした。同時に、全国で同じ思いをされた方々も多かったのではないのでしょうか。

そのような中、これまで64回にもわたり、つながってきた九州ブロック研究大会の歴史

を途切れさせず、また、くまもと大会に向け研究や研鑽を重ねてきていただいた各県・政令指定都市提言校の皆様のご努力を、何とか形にして会員の皆様に向け発信することが九州ブロックにおける私たちの役割であると思いで大会誌を作成いたしました。

ご協力いただいた各提言校の発表はどれも素晴らしい、子どもたちを取り巻く様々な課題と向き合い、創意工夫や連携・協力を図りながらのPTA活動は、これからの参考になったと同時に、心強さを感じました。

また、私たち県・市それぞれも開催予定だった特別分科会を、規模を縮小して開催し、その様子を誌面と動画にて発信することができました。

多くの関係者の皆様のご協力のおかげで、コロナ禍においてもできることを形にし、これまでの学び合いの歩みを進めることができました。この歩みが、豊かな家庭教育やPTA活動の一助となり、子どもたちの輝く未来へとつながっていくことを心から願っております。

そのような中、これまで64回にもわたり、つながってきた九州ブロック研究大会の歴史

また、私たち県・市それぞれも開催予定だった特別分科会を、規模を縮小して開催し、その様子を誌面と動画にて発信することができました。

また、私たち県・市それぞれも開催予定だった特別分科会を、規模を縮小して開催し、その様子を誌面と動画にて発信することができました。

また、私たち県・市それぞれも開催予定だった特別分科会を、規模を縮小して開催し、その様子を誌面と動画にて発信することができました。



鳥取県PTA協議会

鳥取県PTA協議会は、例年6月に指導者研修会を行います。近年の内容は、県教育委員会の施策説明を聞き、分科会にて魅力ある広報紙の作り方、新役員さん向けのワークショップ、インターネットやメディアの利用について子どもたち自身で考えルールを決める子どもサミットなどです。



8月は県教育委員会との懇談会を開き、教育委員会とPTAの両輪で子どもたちの健やかな成長を支える体制を強化します。

12月は、県全体で情報共有並びに前向きなベクトル合わせを目的とし鳥取県PTA研究大会を行い、単Pの実践事例発表や基調講演、子どもサミットの成果発表などを行います。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策のため、オンラインやDVD配布など、やり方の工夫をしながら活動しています。SNSを利用した情報発信や、コロナによる誹謗中傷を考へる人権啓発メッセージをYouTubeにて配信しました。

単Pや各連合会でもコロナ禍をきっかけに事業の精査に取り組むところや、人権研修会をYouTubeライブ配信で行うなどしています。鳥取市小学校PTA連合会では、新型コロナウイルス感染症が一旦落ち着いたタイミングで各学校を巡るコースで各校の代表者が襷をつなぐ「絆駅伝」を開催しました。感染対策に気を配りながら事業を行うことで、連合会組織の団結を維持することができました。



鳥取市小学校PTA連合会では、新型コロナウイルス感染症が一旦落ち着いたタイミングで各学校を巡るコースで各校の代表者が襷をつなぐ「絆駅伝」を開催しました。感染対策に気を配りながら事業を行うことで、連合会組織の団結を維持することができました。

宮崎県PTA連合会



宮崎県PTA連合会は、昨年70周年を迎えました。令和2年度のPTA会員数は77,606名となっています。活動としては、定期総会をはじめ、リーダー等研修会、PTA研究大会、家庭教育研修会等を開催するとともに、年3回PTA新聞「きずな」を発行しています。

また、平成30年には親子が交流を深めるきっかけにと「子育て10か条」を作成しました。その際、県内の小・中学生から夏休みを利用し、10か条のイラストを募集。採用させていただいた子どもたちを研究大会の際に表彰し、記念品を贈らせていただきました。またポスターやチラシ、クリアファイルにして啓発しています。毎年新1年生にも配布しています。来年はイラストの更新の時期となりますので、前回よりも多くのイラストを提案していただければと思います。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、様々な事業を中止にせざるを得ませんでした。そのような中、ようやく11月に役員理事を対象に「理事リーダー研修会」を開催することができました。宮崎県教育委員会により3つのテーマに絞り、講義をしていただきました。「教職員の働き方改革について」「GIGAスクール構想について」「地域と学校の連携・協働について」の説明後、質疑応答を行い、宮崎県の教育の現状について知る有意義な時間となりました。来年度は、県内のリーダーにお集まりいただき、皆さんと共に、より有意義な活動が出来るよう願っています。

まだまだコロナウイルスの収束の見通しが立たず、通常の学校生活やPTA活動が行えず不安な日々が続きますが「子どもを真ん中に、共に学び、共に成長できるPTA活動」を推進していきたいと思っています。この現状をしっかりと受け止め、出来ない活動から出来る活動を見だし、目の前の子どもたちが一人でも多く笑顔で、学校で活動できる地域を目指して頑張っています。



協議会活動紹介

日本PTA全国協議会には、都道府県、並びに政令指定都市の64地方協議会が加盟しており、地方協議会ごとに特色ある活動を実施しております。そこで、本号から4つの地方協議会ずつ、活動紹介を掲載させていただき、全国の皆様方に情報共有を図ってまいります。

計算では、年2回の新聞発行で8年後、次なる「日本PTA創立80周年」までに64地方協議会すべての活動紹介が終了する予定ですので、本号から未来へバトンをつなげてまいりたいと思います。毎号の地方協議会の活動紹介をどうぞ楽しみに！

北海道PTA連合会

私たち北海道PTA連合会は全道178市町村1,233単位PTA（札幌市を除く）で構成されている組織で、広大な面積が活動の基盤となっております。

昨年初頭より北海道は新型コロナウイルス感染症の蔓延・拡大でなかなか満足できるような活動が出来ていないのが現状ですが、この状況においても子どもたちの健やかな成長を目指し共に前を向いて歩みを止めない活動を目指し進めているところです。各研究大会や研修会においては感染防止対策を行いながら開催を進め、SNSやYouTube、Zoom等を活用し新しいスタイルでの活動を行い、ネット環境が整っていない会員には開催内容を収録したDVDを配布するフォローアップを行い、このような状況でも学びの場を提供する取組を進めております。また、この活動を沢山の皆さんに周知や参加、そして本会への加入促進としましてHPの更新を行うとともに、



本年度は子どもたちの笑顔の写真を集めた北海道スタイルの本連合会周知ポスターを、現在構成・制作中でありま

す。完成後は各单位PTAに配布し、全道各地に北海道の活動を発信出来ればと考えております。私たち北海道PTA連合会は今後も「子どもたちの笑顔と共に」を胸に一歩ずつではありますが、子どもたちや会員皆様が楽しめる活動を進めてまいりたいと思います。



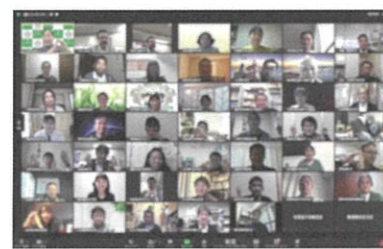
一般社団法人東京都小学校PTA協議会

2020年度、一般社団法人東京都小学校PTA協議会は、活動方針を大きく刷新しました。スローガンを「つながれ！とうきょうPTA」とし、「都内の単P・連合会と連携を深める」ため「情報の集約・発信・共有」に活動の基本を置いています。

<新たな取り組み>

- ・従来の委員会組織を「事業チーム制」に再編成
- ・都内全PTA向けのメールアドレス作成と、それを活用した情報発信
- ・全都小学校PTAオンラインミーティング（PTA役員向け情報交換会：3回開催）
- ・オンラインミニセミナー、ミニ情報交換会（計5回開催）
- ・Zoom主催者向けマニュアル作成、公開
- ・調査事業を紙からWebへ移行、コロナ禍に伴う緊急アンケートなど4回実施
- ・PTA東京かわら版（3回発行）
- ・川柳コンクール実施

今年度は、感染症の拡大により多くのPTAが困難に直面したことと思います。都小Pも「今まで通りの活動ができない」状況でしたが、ピンチをチャンスと捉え「今だからこそ都内PTAのために」を第一に考え、全力で取り組んできました。今後も単P・連合会との「つながり」を深めながら、「頼られる」組織を追求していきます。



国内研修事業

例年、全国の中学2年生を対象に実施してきた「国内研修事業」は、コロナ禍での事業実施が難しく、令和元年度・令和2年度ともに大変残念ながら中止となりました。



全国の参加予定者から預かっていた折り鶴をリーダーとして参加予定だった沖縄大学学生に託しました

令和元年度国内研修 フォローアップ事業

令和2年3月に開催予定であった「令和元年度国内研修事業 in 渡嘉敷村」が、新型コロナウイルス感染症流行により中止となりました。参加予定であった中学生・研修を担うはずだった大学生リーダーの想いを「私の夢、チャレンジ宣言!」として文章でのやりとりをもって収集し、令和元年度の国内研修事業の報告書としてまとめられています。報告書は年度末をめどに200部作成され、中学生本人・大学生リーダー・会員協議会の方に配布されます。

日本PTA総会以降にスタートした事業のため、参加予定の中学生が受験時期と重なる地域もあり、全ての方からの返信は難しくかったものの、想いの詰まった「私の夢、チャレンジ宣言!」をお届けする準備をしています。保護者の方々からも、中止になったことによる

残念な思いを綴ったお手紙もいただき、研修の重要性も再認識したところです。

日本PTAが子どもたちと直接関わり、成長を確かめられる重要な事業です。今後も目的を明確にステップアップし、次代を担う若者の育成のための場として取り組んで参ります。

令和2年度国内研修事業

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、各地方協議会においても活動も思うようには進められず、ご苦勞も絶えないことと思います。このような中ではあります。日本PTA全国協議会は国内研修事業を実施させていただきます。たくことを決定させていただきました。

今年度はコロナ禍の中で、子どもたちは多くの制約や我慢を強いられ、「あきらめ」の気持ちを抱きやすい状況にあります。そんな時だからこそ、私たち大人が物事を前向きに考え、子どもたちの成長する機会を創出することの必要性を理解する者として率先して行動を起こしたいと考えました。しかし、1月7日「新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言」が一部三県に発出されました。新型コロナウイルス感染症が拡大している状況を受け、生徒及び関係者の健康・安全面を第一に考慮した結果、事業の開催の中止を決定いたしました。



渡嘉敷村の集団自決慰霊碑へ千羽鶴を届けました

このような状況下にあっても参加の申し込みをいただいた生徒の皆さん、そしてご理解とご協力をいただいた保護者及び各協議会の皆さんには大変申し訳ないと思えます。

日本PTA全国協議会としては、この現状に肯定はもちろんできませんが、否定だけでも前へは進めません。現状を容認することでも歩みを止めない気概をお示しすることも私たちの使命だと考えております。「コロナだからしょうがない」ではなく、「コロナだからこそ、こうしよう!」マイナスの条件をプラスに転じようとする。ことで進化が生まれ、新たな展開につながっていくと私たちは信じています。

教育関係23団体全国集会

令和2年11月12日(木)、参議院議員会館講堂において、「子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会(教育関係23団体)」主催による「少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会」が開催されました。

参加者において、「少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求めるアピール」を採択し、政府及び関係国会議員等に対し、少人数学級を実現することや教育関係予算の計画的・安定的な財源確保等を要請する趣旨で行われ、参加の教育関係団体を代

表し、清水会長が挨拶を述べました。

新型コロナウイルス感染症の拡大にともない、例年より出席者を限定し、各党代表者のみにご出席いただき、国会議員の方々のご参加はご遠慮いただく状況となりましたが、力強いアピール文に大きな拍手とともに賛同をいただき、無事アピールを採択することができました。

本アピールは、年次表彰式時にも萩生田文部科学大臣に清水会長から手渡しさせていただきました。子どもたちの教育環境充実を目指し、今後も各教育関係団体としっかりと手を携えて活動してまいります。

本アピールは、年次表彰式時にも萩生田文部科学大臣に清水会長から手渡しさせていただきました。子どもたちの教育環境充実を目指し、今後も各教育関係団体としっかりと手を携えて活動してまいります。

少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会
本集会は、子どもたちの豊かな育ちと学びを支援する教育関係団体連絡会(教育関係23団体)が主催し、参議院議員会館講堂において開催されました。清水会長が挨拶を述べ、各党代表者や国会議員など、約200名が参加しました。本集会では、「少人数学級の実現と学校における働き方改革の推進等を求める全国集会」の趣旨を共有し、各党代表者や国会議員等から本アピール文が提出され、賛同をいただき、無事本アピール文が採択されました。本アピール文は、年次表彰式時にも萩生田文部科学大臣に清水会長から手渡しさせていただきました。子どもたちの教育環境充実を目指し、今後も各教育関係団体としっかりと手を携えて活動してまいります。



広い場所にて間隔をあけて着席



萩生田文部科学大臣もご臨席

諮問会議活動報告

日本PTA諮問会議は、令和2年8月28日に設置が承認され、これまで全体会2回、専門部会7回が開催されました(令和3年1月31日現在)。

前号でも紹介しましたが、会長が指名した諮問会議議長が招集し、日本PTAに求められている今日的課題や、将来を見据えた本会のあり方等について検討を行うものです。

現在は議長を含め8名の委員にて構成されており、検討事項を会長へ答申を行う形で進行しています。早期対応

規程等整備ワーキンググループ

現状を見極め理事会と連携を取りながら、順を追って整備し答申していきます。法改正等による新しい観点から規程等を見直すことが必要で、今年度だけではなく今後も必要な専門部会との認識です。

□定款、規程等整備方針のまとめ(法人運営、労務管理、事務局管理、様式類等)を行う

▼定款・定款施行細則…理事会からの提議により討議する

▼旅費規程…現在の規程を遵守しながら現状に合った規程を整えていく

▼日本PTA会員入退会…規程の新設を検討し届け出諸書票についても作成する

を求められる「新型コロナウイルス感染症ワーキンググループ」からは、5回の答申がなされ、公益目的事業を進めるにあたって、理事会において直接的な判断材料につながっています。討議内容について、早期・中期・中長期的な確かな見極めをし、会長への答申が成されています。また、見える化にも心がけ、当然のことながら開催申請・報告書(議事録)を記録し、透明性を確保した会議を行っています。

▼寄付金等取扱…公益法人として規定を新設すべき

▼就業規則…育児・介護休業規定の新設やパートタイマー等について、現在の法改正に沿ったものに改訂すべき点が多い

社会教育・初等中等教育問題ワーキンググループ

日本PTAとして今日的課題を考える上で、大きなテーマを持ったワーキンググループです。関係府省庁等に対して、要望したり対等に話し合う場をつくっていただくことが必要で、その土台を討議し提案していきます。

□GIGAスクール構想における、日本PTAからの要望等を取りまとめる

▼学校教育現場におけるICT環境整備が遅延している実態があることから、日本

PTAとして関係機関へ要望を行うことに資する内容について2~3月を目途に提示する

▼中教審における審議状況や今後の流れ等を参考に、子どもたちのICT活用に関する留意すべき点などを社会教育関係団体として保護者に発信するための内容を取りまとめる

早く対応できるよう情報収集を行う

▼第1回…国内研修事業における新型コロナウイルス対応について等

▼第2回…誹謗中傷、差別、偏見に対する取り組みについて等

▼第3回…新型コロナウイルス感染症対応ガイドの第二版について等

▼第4回…令和2年度年次表彰式における感染防止対策の評価等

▼第5回…令和2年度国内研修開催について等

組織のあり方プロジェクトチーム

一昨年度まで、会員協議会とのつながりを重視し膝詰めの懇談や、派遣された役員がブロックへ訪問し情報の伝達を行ってきました。

昨年からのコロナ禍により、代表者が実際には顔を合わせられていない状況の中、PTAの歴史や意義・公益社団法人について触れながら、リモート等を活用し、会員協議会と意見交換の場を設けることができるよう模索します。

▼会長からの要請により、プロジェクトチームを活動させ、会員協議会との意見交換を行う

▼ブロック協議会・会員協議会からの要請に応じ、意見交換を行う

▼現在までに5回の答申がなされたが、以降も情勢に素早く対応できるよう情報収集を行う

▼第1回…国内研修事業における新型コロナウイルス対応について等

日本PTAは「シトラスリボンプロジェクト」に賛同しています

みんなで広げよう! 「シトラスリボンプロジェクト」

「シトラスリボンプロジェクト」とは、コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛県の有志がつくったプロジェクトです。

愛媛県特産の柑橘にちなみ、シトラス色のリボンや専用のロゴマークを身につけて、たとえウイルスに感染しても地域の中で、誰もが笑顔の暮らしを取り戻せることの大切さを伝え、感染された人やエッセンシャルワーカーが、それぞれの暮らしの場

で「ただいま」「おかえり」と言い合える思いやりのある社会づくりを目指しています。

リボンやロゴで表現する3つの輪は、「地域・家庭・職場(or学校)など」を表しています。



ただいま、おかえりって言いあえるまでに

みんなで広げよう、シトラスリボンプロジェクト。



当たり前と思っていた「ふだんの暮らし」を揺さぶっているCOVID19。今や、どこにいても何をしても、いつだってあったって感染のリスクはゼロではありません。感染拡大を防ぐためには、さらなる「行動変容」が必要になると同時に、だれもが、少しでも心のびやかに暮らせるようなまちのあり方が、今こそ問われているのかもしれない。ウイルス感染拡大阻止は、もちろん大事です。経済対策も大事です。でももうひとつ、忘れてはならないことは、たとえウイルスに感染してしまっても、地域の中で笑顔の暮らしを取り戻せるということの大切さです。「ただいま」「おかえり」。お互いにそんなふうに言いあえる、受け止める空気であってこそ、安心・安全が守られるまちなのだと思います。わたしたちの暮らしを守るために日々奮闘しておられる方々への感謝も込めて、「ただいま」「おかえり」って言いあえるひとの輪を、ここ愛媛から。

Citrus Ribbon PROJECT
シトラス色(柑橘をイメージ)のリボンや紐で、3つの輪をつくる「シトラスリボン」。このリボンやロゴを付けて質問の気持ちを表現しています。全国に活動の輪が広がっている様子は、下記サイトでご紹介。シトラスリボンの作り方なども掲載しています。
Facebook: citrusribbonfromhime
お問合せ: citrusribbonfromhime@gmail.com(5:00~19:00)

シトラスリボンの作り方

右記の二次元コードから公式シトラスリボンプロジェクトの作り方動画が見られます。



※詳しくは「シトラスリボンプロジェクト」サイトへ

第42回 全国小・中学校PTA広報紙コンクール審査結果

平成31年4月から令和2年3月までに発行されたPTA広報紙を募集し、小学校274校、中学校1323校、小中一貫校2校、応募総数4067校の中から、小学校PTAの部22校、中学校PTAの部22校が優秀作品に選ばれました。

各協議会から一次審査を通過し推薦されたPTA広報紙作品は、小学校362校、中学校221校で、二次審査、三次審査、最終審査を経て受賞となりました。

優秀作品に選ばれた団体に対し、令和2年11月27日(金)に開催した年次表彰式にて表彰を行いました。さらに、入賞作品を掲載した「第42回優秀広報紙作品集」を発刊します。優秀作品を表彰・公開することにより、PTA広報活動の活性化を促進し、PTA活動の一助となることを目的とし、令和3年度も募集を行います。ご応募お待ちしております。



力作揃いの最終審査会でした

賞	小学校PTAの部	中学校PTAの部
文部科学大臣賞	香川県高松市立花園小学校PTA	大阪市立野田中学校PTA
日本PTA全国協議会会長賞	富山県南砺市立福野小学校父母と教師の会	北海道北見市立高栄中学校PTA
	香川県高松市立高松第一小学校PTA	栃木県宇都宮市立陽西中学校PTA
	熊本県球磨村立渡小学校PTA	静岡県静岡市立西奈中学校PTA
日本教育新聞社社長賞	青森県八戸市立田面木小学校父母と教師の会	福島県福島市立飯野中学校父母と教師の会
	神奈川県綾瀬市立寺尾小学校PTA	さいたま市立八王子中学校父母と教師の会
	岐阜県岐阜市立市橋小学校PTA	島根県安来市立第一中学校PTA
教育家庭新聞社社長賞	さいたま市立中島小学校PTA	岐阜県岐阜市立長森中学校PTA
	大阪府和泉市立青葉はつが野小学校PTA	愛媛県西条市立東予西中学校PTA
企画賞	富山県射水市立大島小学校PTA	大阪府交野市立第二中学校PTA
写真賞	岐阜県岐阜市立本荘小学校PTA	香川県高松市立勝賀中学校PTA
レイアウト賞	沖縄県うるま市立南原小学校PTA	岩手県盛岡市立見前中学校PTA
佳作	北海道石狩市立生振小学校PTA	北海道帯広市立帯広第一中学校PTA
	岩手県滝沢市立滝沢第二小学校PTA	茨城県つくば市立秀峰筑波義務教育学校PTA
	山形県酒田市立松原小学校PTA	千葉県立土気中学校PTA
	さいたま市立常盤小学校PTA	神奈川県秦野市立西中学校PTA
	さいたま市立太田小学校PTA	長野県松本市立筑摩野中学校PTA
	岐阜県岐阜市立鏡島小学校PTA	岐阜県瑞穂市立穂積中学校PTA
	大阪府箕面市立萱野小学校PTA	鳥取県三朝町立三朝中学校PTA
	兵庫県加古川市立加古川小学校PTA	山口県下関市立勝山中学校PTA
	鹿児島県奄美市立朝日小学校PTA	山口大学教育学部附属山口中学校PTA
	沖縄県那覇市立城南小学校PTA	福岡県宇美町立宇美東中学校PTA

令和2年度「楽しい子育てキャンペーン」

「家族で話そう！わが家のルール・家族のきずな・命の大切さ」三行詩選考結果

都市化や核家族化、少子化など、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化する中、改めて家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずな・家庭のルール、「早寝早起朝ごはん」といった子

都市化や核家族化、少子化など、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化する中、改めて家族の会話やコミュニケーションから育まれるきずな・家庭のルール、「早寝早起朝ごはん」といった子

どもたちの基本的な生活習慣づくりなど、家庭教育の大切さや命の大切さについて、家族で話し合い一緒に取り組むことを社会全体に呼び掛けることを目的とした三行詩を募集し、全国から小学生4038

9点、中学生333
81点、一般828
0点、合計8205
0点もの応募がありました。

募集期間が休校に重なっており、新型コロナウイルス感染症による自粛期間で家族の絆を再確認す

る作品内容がいくつかあったことが印象的でした。最終選考で小学生、中学生、一般の部から各4点が優秀作品に選ばれました。カレンダーに掲載されますので、発行までしばらくお待ちください。

文部科学大臣賞

小学生の部 鹿児島県 下窪 剣心
ぼくのおかあさんは
100てんよりも はなまるよりも
「ただいまがーばんうれしー」だって

「早寝早起朝ごはん」全国協議会会長賞

小学生の部 岐阜県 柴山 新汰
お母さん あとじゃなくて今きいて

中学生の部 静岡県 近藤 香梨
学校が好き 部活が好き 友達が好き
休校が教えてくれたこと。

中学生の部 岩手県 佐藤 百音
「自分を信じて。」
弁当箱についてたふせん。
この言葉で頑張れたんだよ。

一般の部 新潟県 小出 里江
子育てを やってるつもりが 親育て

一般の部 鳥取県 秋吉 礼美
わが子は親の鏡
良いも悪いも マネ上手

小学生の部 山形県 鈴木 あすは
みんなと会えることがあたりまえ。
みんなと遊べるのがあたりまえ。
あたりまえってなあに？
コロナが教えてくれた
あたりまえって幸せ。

小学生の部 愛知県 大地 望結
さいほうがにがてなママが
つくってくれた手づくりマスク、
ずっとたいせつにつかうね。

中学生の部 仙台市 実戸 咲和花
目は覚めている
でも母が起こしに来るまで
もう少しだけ。

中学生の部 青森県 鎌田 颯姫
いってきますと言わなきゃ 出かけられない
ただいまと言わなきゃ 入れない
わが家の玄関

一般の部 山口県 山根 洋子
お風呂の中から
息子の鼻歌が聞こえる
今日も楽しい一日だったと安心する私

一般の部 山形県 白石 希
「いってきます」元氣にかけてく君の背の
日に日に縮むランドセル。
あの時思った「大きくなれ」、
今は願うよ「時間よ止まれ」

厚生労働大臣賞

小学生の部 山形県 鈴木 あすは
みんなと会えることがあたりまえ。
みんなと遊べるのがあたりまえ。
あたりまえってなあに？
コロナが教えてくれた
あたりまえって幸せ。

日本PTA全国協議会会長賞

小学生の部 愛知県 大地 望結
さいほうがにがてなママが
つくってくれた手づくりマスク、
ずっとたいせつにつかうね。

編集後記

まだまだコロナの影響が続き、あらゆる制約の中でどのようにPTA活動を進めて行けば良いのかと、試行錯誤をしながらの毎日ではないでしょうか。ピンチはチャンスとも言われます。できる限りの創意工夫をしながら、目の前の子どもたちの為にも、今こそ「チーム日本PTA」で乗り越えて行きましょう。
(西府茂樹)

